

## MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT



マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。マミヤカメラクラブ会報誌 (Mamiya Gallery) の発行 (原則年2回)。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。web ギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。



### 入会費用

入会金 1000円 (税込)  
年会費 3000円 (税込) ご入会より1年間。  
※但し2年分の年会費をご入会時にお納めください。

### 特典

- マミヤカメラクラブ会報 (Mamiya Gallery) の発行。
- クラブ撮影会の開催。
- 勉強会・セミナーの開催。
- ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
- マミヤ製品修理・点検料金の引き。
- 会員証、オリジナル会員バッジ提供。
- オリジナル会員名刺制作 (有料)。

●製品・修理に関するお問い合わせは、東京サービスセンターへご相談ください。

- 修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
- 東京サービスセンターショールームにはマミヤ全機種を展示しています。
- 実際に製品を手にとって操作感や質感を確認できます。また、選定のアドバイス、操作上の疑問にもお答えしています。

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

東京サービスセンター

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-2-2 ココタイビル 1F

TEL.03-6748-1983 FAX.03-6748-1991

営業時間 9:00~17:50 土、日、祝日は休業



### マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイト内

TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786

E-mail :info@mamiya-club.com

- マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合わせください。
- 撮影会・イベントのお申込み・お問い合わせを承ります。
- 下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ <http://www.mamiya-club.com/>

●株式会社ワイズクリエイトでは、下記のような業務を行っています。

- マミヤカメラ製品・大判カメラ販売を致しています。
- 撮影アクセサリ、ザックの販売を致しています。
- プロラボ現像・プリントを承ります。
- 撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

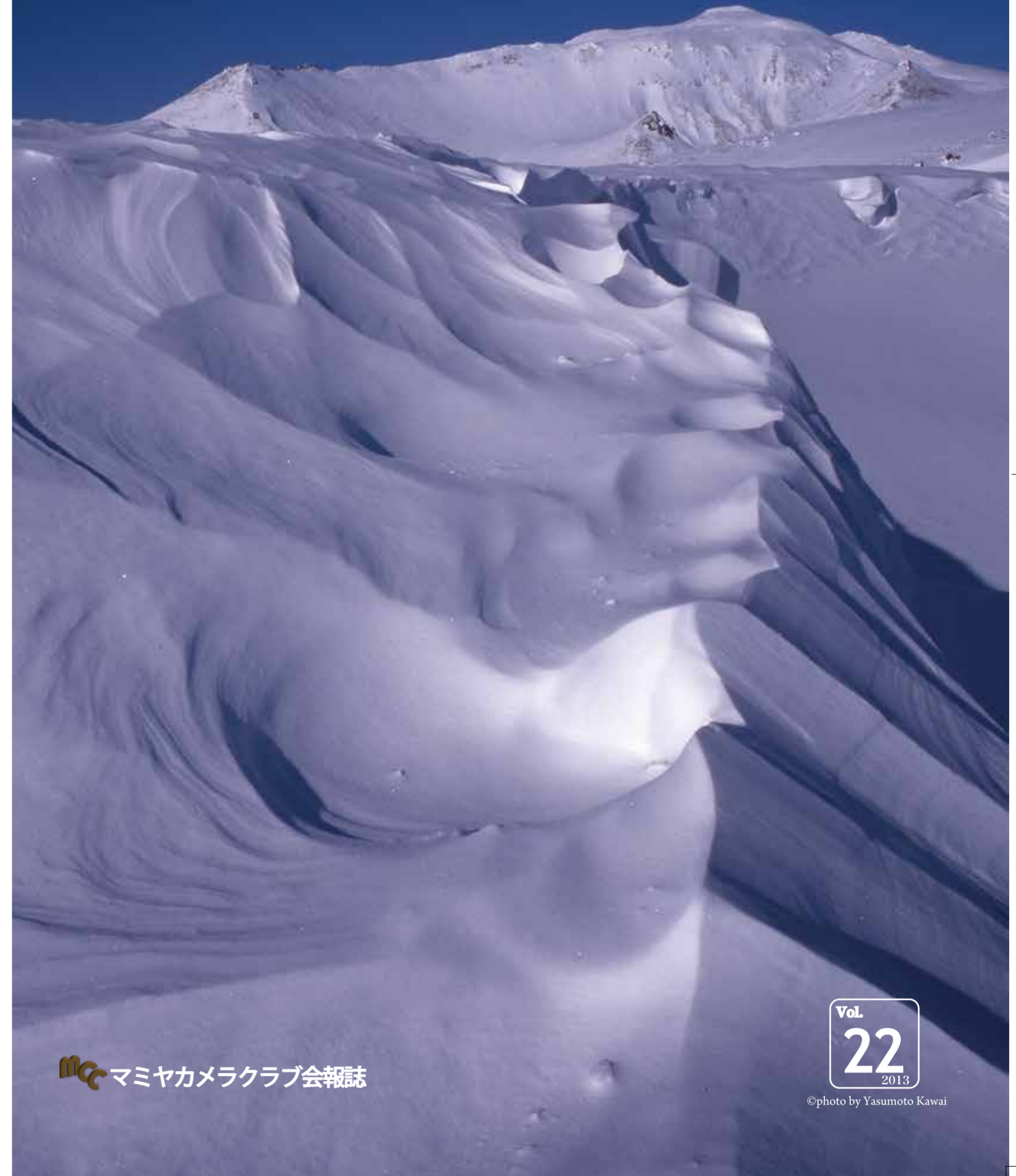
ワイズクリエイトは写真を通じて人と人、人と自然とのコミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。

大判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。

[www.yscreate.co.jp](http://www.yscreate.co.jp)



# Mamiya Gallery



MCC マミヤカメラクラブ会報誌

Vol.  
22  
2013

©photo by Yasumoto Kawai



# 大雪山の四季を撮る

北海道の中央部にそびえる大雪山は、大雪山系とも呼ばれ火山群の名称であります。広義には表大雪、北大雪、東大雪、十勝岳連峰を包含する大雪山国立公園の南北 63km、東西 59km と広大な広さとなり、山を愛する写真家にとっては四季を通して絶好の被写体となっています。今回はこの大雪山について山岳写真家の川井靖元さんに、マミヤカメラで撮影した作品と大雪山の四季の魅力について寄稿頂きました。

北海道の屋根である大雪山は四季折々に素晴らしい景観を見せる。北海道のほぼ中央部にある大雪山は中部山岳の日本アルプスより約 1000 km 北にあり、亜寒帯に属する。麓の上川では真夏日は 1/2、真冬日は 3 倍の寒冷地であるが、広大な自然が残されている。

**冬** 大雪山の冬は 11 月から 5 月まで厳寒の季節は長い。この期間にわれわれが安全に山に入れる山域は、通年運転の旭岳ロープウェイを利用して姿見周辺を訪れるとよい。シベリヤ高気圧から吹き付ける季節風が豪雪をもたらす冷え込みは厳しい。この厳冬の最中の 2 月旭岳温泉のビジターセンターの許可を得てロープウェイ姿見駅周辺の風の弱いところ探しテントを張り朝夕の撮影をした。夕方から風が強くなり、気温 -20°C、風速 18 ~ 20m/sec に及んだ。烈風の中テントの張り綱が切れたり、激しい風の音が鳴り響く一夜を過ごした。翌朝風は止み、好天に恵まれた。晴上がった姿見平は絶景で正面に逆光の旭岳がみえる。雪原には風が彫刻する風成雪ができて素晴らしい。姿見池近くの避難小屋は雪に埋まっていた。登山道から見るトムラウシ山と十勝の山々は素晴らしい。



『夕照の旭岳』 マミヤ 7II N65 mm F4L RVP  
〈表紙〉『雪紋』 マミヤ 7II N6 5mm F4L RVP

## 大雪山の四季 川井靖元



川井 靖元 (かわい やすもと)  
1937 年東京神田に生まれる。日本山岳写真協会前理事長。日本山岳会会員日本写真協会会員。山岳写真同人四季会員。チベット山岳写真協会会員。2013 年 1 月～モノクロ写真展「雪稜讃歌」エフソンギャラリー東京、京都。2008 年 5 月～「山岳光彩をもとめて」ペンタックスギャラリー東京、京都他。2002 年 2 月～モノクロ写真展「雪稜礼讃」ペンタックスギャラリー東京他。その他多数開催。山岳写真ガイド「山のベストショット」(山と溪谷社)モノクロ写真集「雪稜礼讃」(東京新聞出版局)写真集「尾瀬の四季を歩く」(東京新聞出版)その他著書多数。



『噴煙上げる旭岳地獄谷』 マミヤ 7II N43 mm F4.5L RVP



『旭岳遠望』 マミヤ 7II N80 mm F4L RVP



『落日の旭岳』 マミヤ 7II N150 mm F4.5L RVP





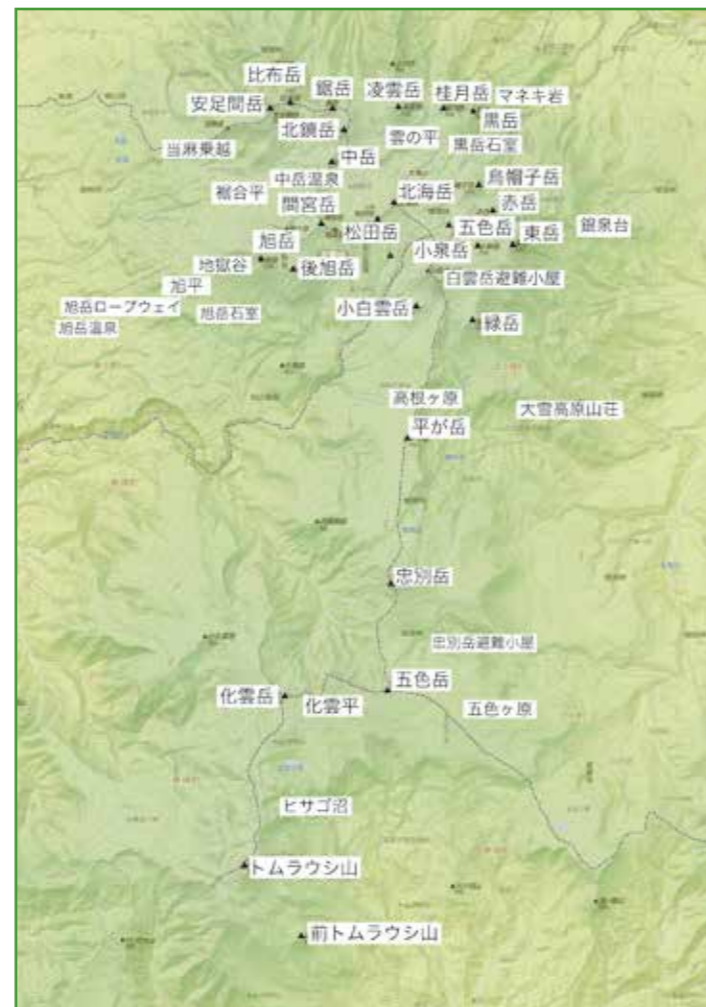
『春の袖合平』 マミヤ 7II N65 mm F4L RVP50



『トムラウシ北沼』 マミヤ 7II N65 mm F4L RVP50



『残雪の姿見池』 マミヤ 7II N43 mm F4.5L RVP50



『チングルマ、エゾコザクラ咲く』 マミヤ 7II N80 mm F4LRVP



『イワブクロ咲く雲の平』 マミヤ 7II N43 mm F4.5L RVP

**春** ゴールデンウィークは春スキーのメッカであるが、雪原上では全くの冬である。春の訪れは6月に入ると、稜線では残雪と云うより雪稜であるが、谷筋にはエゾリュウキンカやミズバショウが咲き始める。さらに暖くなると雪解けの姿見平や裾合平にキバナシャクナゲやウルップソウが咲き始める。

**夏** 大雪山の魅力は山上の楽園を大縦走することである。広大な山岳景観を背景に湿原、池塘、雪渓周辺のお花畑が素晴らしい。しかし大雪山の縦走路にある山小屋はすべて避難小屋スタイルで、寝具、食糧はすべて持参する必要がある。代表的な縦走コースは登り下りにロープウェイを利用できる層雲峡～黒岳～旭岳～旭岳温泉コースである。途中の黒岳石室周辺、雲の平、北鎮岳山麓は夏の高山植物の大群落を見ることが出来る。チングルマ、コマクサ、ミヤマリンドウ、エゾコザクラ、イワブクロなどの群落がよい。このコースは日帰りもできるが、途中黒岳石室に1泊すると撮影時間も増えるのでよい。さらに人気の高いコースとして銀泉台～赤岳～白雲岳避難小屋～北海岳～間宮岳～旭岳～旭岳温泉が上げられる。赤岳山麓のコマクサ平、白雲岳山麓から高根ヶ原にかけては高山植物の群落が素晴らしい。本格的な大雪山の縦走としては層雲峡からトムラウシ温泉までテント泊で3泊4日のコースである。白雲岳～高根ヶ原～五色岳～化雲平～日本庭園～トムラウシ北沼～南沼などの花の景勝地を通る。登山の最適時期は7月下旬から8月中旬である。しかし一昔前までは北海道は梅雨がないといわれていたが、最近では夏の初めに前線が北海道を横断する時期がある。3年前にはこの時期にトムラウシで大遭難が発生している。天気図をよく見て行動計画を立てよう。





『草紅葉咲く旭岳山麓』 マミヤ 7II N60 mm F4L RVP



『草紅葉彩る北鎮岳』 マミヤ 7II N65 mm F4L RVP



『北鎮岳よりお鉢平』 マミヤ 7II N43 mm F4L RVP50



『紅葉の赤岳山麓』 マミヤ 7II N210 mm F8L RVP



『草紅葉咲く雲の平』 マミヤ 7II N43 mm F4.5L RVP50

**秋** 日本で一番早く秋が訪れるのは大雪山である。9月上旬に黒岳山頂付近の草紅葉からスタートする。ウラシマツツジやナナカマドなど山稜の本格的なスケールの大きい紅葉は9月中旬である。黒岳石室周辺、雲の平、白雲岳山麓、北海岳山麓、少し遅れて姿見平、裾合平、さらに遅れて下の沼の平、高原沼、銀泉台である。しかし紅葉の最盛期は意外と短く、一夜の降雪、降霜で色彩は失われ、冠雪した紅葉は茶褐色化し趣が無くなる。お進めコースとしては銀泉台～赤岳～白雲岳～高原温泉、層雲峡～黒岳～北鎮岳～裾合平～姿見平～旭岳温泉などがあげられる。

山容をバックに草紅葉やお花畑をパンフォーカスで撮る場合、全面に合焦点が必要だ。フィールドカメラの場合はバックアオリで遠くの山から手前の花までピントを合わせるが、マミヤカメラのような中判カメラでは最小絞りで距離目盛を中距離（2m）にセットして撮ろう。紅葉を直接撮影する場合、偏光フィルターを使用して葉の反射を取り除き彩度を高めて撮るとよい。最盛期を過ぎた紅葉でもナナカマドの赤い実や枯葉などに霜や雪がつくと晩秋の趣が出る。



『ウラシマツツジの紅葉』 マミヤ 7II N80 mm F4L RVP



『紅葉の当麻岳山麓』 マミヤ 7II N150 mm F4.5L RVP



『ウラシマツツジ咲く凌雲岳』 マミヤ 7II N43 mm F4.5L RVP



『紅葉の高原沼』 マミヤ 7II N150 mm F4.5L RVP



## 『ライフワークとして新宿御苑を撮り続けています。』

金田米三さん



写真を見て「あれ何処かで見た事がある？」と思われる方は多いと思います。愛称「金ちゃん」こと金田米三さんの登場です。金田米三さんは何よりも写真とカメラが好きで写真人間ですが、その中でもマミヤRB67を使って四季の新宿御苑を撮影する事が一番多いそうです。平均して月に2~3回は必ず新宿御苑を訪れて至るところで撮影しています。「あ〜、そう言えば会った事ある」と思い出した人も多いと思います。マミヤカメラとの出会いは、30年前に当時勤務していた会社の近くに在ったカメラ屋さんが写真展を開くというので「大きくプリントするなら中判カメラが良い」とマミヤRB67を購入したのが最初になります。その後マミヤ6、7、7II、RZも購入し更に4x5、5x7、8x10インチ大判カメラまで購入しました。そんなカメラ遍歴の持ち主のお気に入りにはマミヤRB67だそうで、山岳写真も撮影する金田さんにとって電気系統がないのが一番だと言います。それでは2012年の新宿御苑の四季をお楽しみください。



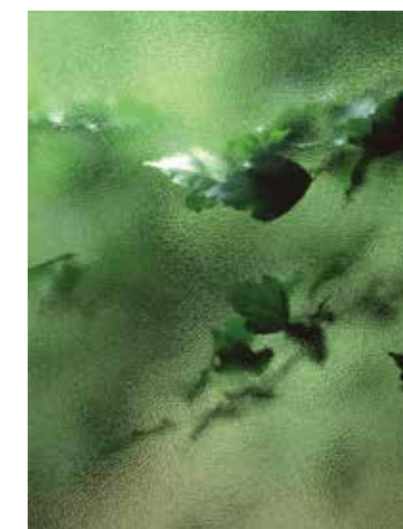
## マミヤカメラユーザーを訪ねて。

### 「2012 新宿御苑の四季」



金田 米三 (かねだ よねぞう)

1946年東京・神楽坂生まれ。学生時代にカメラに興味を持ち撮影開始。ミノックスから35mm、中判、大判8x10インチカメラまで所有。特に山岳・風景写真をメインに撮影するも、ライフワークとして新宿御苑に年間30回以上訪れ「新宿御苑の四季」を撮影。





# 表参道にギャラリー「Space Jing」をオープンした 広告写真家・中澤久和さんに聞く。

今号よりの新企画として写真家、メーカー、ギャラリー、新聞・雑誌社等「写真」をキーワードにして活躍する人を訪ねて、その人の生の声を聞く「この人を訪ねて」をスタートしたいと思います。第一回目は私が以前(20年以上前)日本広告写真家協会(APA)の賛助会員だった頃からお付き合い頂いている広告写真家中澤久和さんに登場頂きました。今年、中澤久和さんは表参道の自社ビルに写真ギャラリー「Space Jing」を開設いたしました。写真文化を発信する「Space Jing」についてもお話をお聞きしてみました。(事務局 木戸嘉一)



**中澤 久和 (なかざわ ひさかず)**  
1948年東京渋谷区生まれ。日本写真専門学校(現・日本写真芸術専門学校)卒業。日本広告写真家協会会員、日本写真芸術専門学校校友会会長。NPスタジオ/Space Jing 主宰。商品・人物・ステルフォト・風景・イメージフォト・デジタル 3D 撮影など撮影は多岐に渡る。ニッカウキスキー、味の素 AGF、明治製菓、コダック等多くの商品撮影を手がける。マミヤ合同撮影会講師や中国北京、杭州で撮影セミナー、講演等を行う。日本写真専門学校、パンタンデザイン、日本写真学園等でも講師を務める。その他、写真作品審査、原稿執筆等。2013年ギャラリー「Space Jing」開設。



ホワイトの展示壁面にフローリングがとてもオシャレなギャラリー内部。取材当日は中川彰写真展「パウルを探して」を開催中。



展示額は全紙、半切、大四切りが各 40 枚在庫。レンタルは無料です。表参道駅より徒歩 6 分の中澤ビル地下 1 階が「Space Jing」。



表参道駅より徒歩 6 分の中澤ビル地下 1 階が「Space Jing」。



地下に続く階段を下りるとギャラリー入り口。



ギャラリーオープン時間は 12 時から 20 時と会社帰りにも立ち寄れます。

## 写真をキーワードに生の声を聞く。 この人を訪ねて ①



中澤さん作品:ニッカウキスキー。人形の吉徳大光。明治チエリシー。富士フィルム「VALUE」は創刊号の表紙写真を担当。他多数。

### Q プロ写真家になられたきっかけは?

◎私の親父がカメラが趣味で子供の頃からカメラに接していたこともあり、高校を卒業する時「俺の進むべき道は写真だ」と決意しました。丁度近くに日本写真専門学校(現・日本写真芸術専門学校)が開校したのも何かの縁かもしれません。

### Q 現在、日本広告写真家協会 (APA) の会員でもあります何故広告写真の道に?

◎入学した当時の日本写真専門学校の校長は資生堂のカメラマンとしても有名な井深徹さん、講師陣には杉木直也さんや電通の写真部長だった人など広告写真の第一線で活躍する方達の影響が大きかったと思います。特に井深徹校長には大変可愛がってもらって仲人までして頂きました。ですから自分の写真の道は抵抗無く広告写真に進んでいました。学校を卒業して直ぐ青山に写真事務所を借りてフリーの広告写真家としてスタートしました。その後苦勞もありましたが、事務所と同じビルに電通の仕事していたイベント会社があってイベントやカンファレンスのスナップ撮影を頼まれ事務所経費等は全てこの撮影で賄っていました。ある意味運の良いスタートでした。その後 3~4 年は複写や比較的地味な仕事ばかりでしたが、ある時、著名な AD よりウイスキーのポールの写った 4x5 インチポジを渡され「これと同じものを撮影してみない」と商品撮影の依頼がありました。ニッカのポルを渡され自分なりの撮影技法で撮影したところ、「じゃあこれも撮影してみない」と当時サントリーのオールド(だるま)に対抗してニッカが新発売する「ニッカ G&G」の写真を来る日も来る日も撮影しました、これがポスターやキャンペーンの印刷物になり、

私の様な若いカメラマンが天下の電通の仕事をしてこんなに作品が使われるのは凄い事だと思いました。またこの事が実績となり、その後も味の素や明治等の写真撮影もしました。そして 30 歳くらいで APA に入りました。

### Q 今回「Space Jing」を開設した理由をお聞かせください。

◎APA に入会後も運が良いのか順調に仕事をこなしてきました。順風満帆な広告写真家人生と思っています。ただ 60 歳のとき軽い脳梗塞を発症したために写真撮影にも影響がでてしまいました。そして 2 年前に網膜の病気で視界が制限されたり歪みが出たりして本格的な撮影はぎつくなりましたが、写真を撮影出来ないならば写真を見せる仕事であるギャラリーを展開したいとの気持ちが湧いて来ました。特に卒業学校の校友会会長にもなって、写真を志す若い人たちの作品発表の場を提供したいとの思いが強くなりました。そんな時にお世話になっていたコダックフォトサロンが昨年 10 月で業務を終了する事が決まりました。写真家の交流の場を失うのは残念な事で、寂しい思いがあり、フォトサロンのアドバイスを受け、スタジオをギャラリーに改装し、2013 年から本格的にスタジオを写真展示スペースとしてスタートしました。

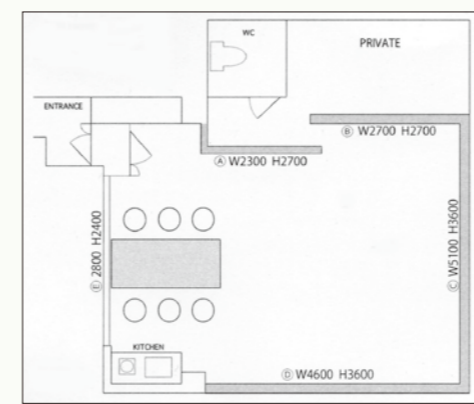
### Q 「Space Jing」をどんなギャラリーにしたいと思いませんか。

◎長年、写真撮影を生業としてきましたので、ギャラリーの運営は多くのギャラリー関係者からノウハウ等色々ご指導を頂いております。この付近にも沢山のギャラリーがありますが、みんな似て非なるものがあり、それぞれ個性があつてとても良いと思

ます。ギャラリー内部は高い天井と白い壁面に元の写真スタジオのイメージを残し、多目的な空間(スペース)を演出しています。「Space Jing」は写真と人の関わりを大切に、写真を通してコミュニケーションを図れる場にしたいと思っています。だから名称も「ギャラリー・ジング」でなく、敢えて「スペース・ジング」の名称にしました。

### Q 今回はマミヤ会報誌の取材ですがマミヤカメラクラブ会員に対してメッセージをお願いします。

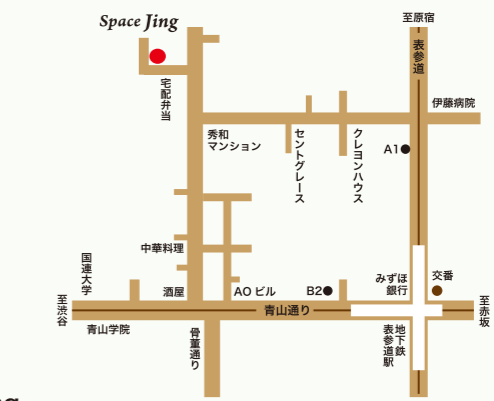
◎写真に対する情熱と楽しさを持っている人なら「Space Jing」は大歓迎です。写真展を開催する場合「自分の写真をどのように見せたいのか」「何を表現したいのか」明確な目的意識が必要です。



個展開催には最適な壁面 17.5 メートルの展示スペース。

**Space Jing**

勿論、撮影者の意向を引き出し、作品のセレクトから、効果的な作品展示まで色々お手伝いをさせていただきます。写真展はフィルムだからデジタルだからの機材や撮影プロセスは一切関係なく、展示された作品の結果が全てです。それには日頃からご自身の撮りたいと思う気持ちとテーマを持って、いつも撮影の出来る環境に身を置く事が大切だと思います。クラブ会員の皆様には今日までの写真経験を生かし、アドバイス等でもお応えしたいと思います。

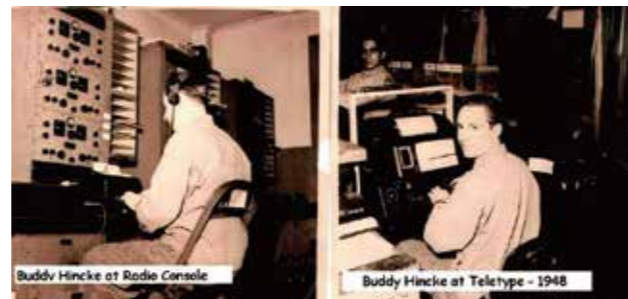


**Space Jing**  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-45-5 中澤ビル B-1  
Tel 03-3409-2744 Fax 03-3409-2735  
地下鉄 銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道駅」徒歩 6 分  
JR「渋谷駅」「原宿駅」徒歩 15 分



# マミヤカメラクラブ海外会員からの便り。

2012年の年末にアメリカから電子メールがクラブ事務局宛に届きました。発信者は昭和20年代に日本に軍人として赴任していた Buddy Hincke さんでした。メールによると当時日本でマミヤカメラクラブに入会されておりご自身の作品が会報誌の表紙にもなったとの事でした。2011年よりマミヤカメラクラブ事務局を引き受けさせて頂きましたが、同クラブがいかに歴史あるクラブでマミヤカメラのユーザーが世界中に居る事を再認識致しました。マミヤデジタルイメージング社の協力により Buddy Hincke さんの当時の貴重な写真を会報に掲載する事をご了承頂きましたので今号では特別企画として頂戴した何通かのメールを日本語で紹介させて頂きます。アメリカのマミヤカメラクラブ員の歴史と写真をお楽しみください。



(事務局 木戸嘉一)

無線機器とテレタイプ前で撮影された Buddy Hincke さん。

## Buddy Hincke 氏より 1 回目のメール。

私は 1948 年頃マミヤカメラクラブ会員でした。米国軍人で東京に駐在し無線技師として愛宕山放送局 (旧 NHK) におりました。

マミヤカメラクラブが私の撮った写真をクラブ誌の表紙にしました。今もその冊子をもっていますが発行日がわかりません。背表紙誌に 27-1-25 とありますので皆様ならおわかりでしょう。そちらに所蔵庫がありこの冊子をお持ちであれば素晴らしいことですが、もし無ければ喜んでお送りします。

1947年、私が日本に行ったとき最初に手にしたカメラはマミヤ6でした。後にマミヤフレックス、そしてまた後に他のマミヤ2眼レフを入手しました。東京でマミヤの方々と友人になりましたが、2年後アメリカに戻りました。

その後朝鮮戦争が勃発し、私はボランティアでそこに参りました。そのとき日本を再訪しました。マミヤの会社でその友人達と話をした際、彼らはカメラを持っているかと尋ねました。私は持っていないが買うお金も無いと言いました。彼らはカメラを私に手渡し、戦争から戻った時の支払いで良いと言いました。私はそれを履行しましたが、彼らがカメラ代金を請求したかどうか覚えていません。

再びアメリカに戻る時、彼らは私の名前 "BUDDY R. HINCKE" と裏に刻んだ小さな 16 ミリのカメラをくれました。とても精巧なものでした。このカメラを 53 才になる娘が私の形見として持っています。私は今 85 才です。

東京にいる間、多くの写真を撮り、いくつかを日本のカメラ雑誌社に売りました。ARS (アルス) カメラ (写真の教室) NO.1 から NO.3、カメラファン NO.5(1951.4)、カメラ誌 NO.7(1951.7) NO.9(1951.9)、アサヒカメラ NO.6(1951)、ジャパンフォトグラフィー (1951.9) に写真が載っています。

撮影の全てにマミヤのカメラを使いましたが、これらの発刊誌はマミヤや他の会社にとって価値のあるものと思います。マミヤクラブの表紙の写真と掲載された「海女さん」の写真を添付します。また参考にマミヤで働く 3 人と私が写った写真を添付します。記憶によれば左から、岡本、加藤、私、工藤さんと 1949 年マミヤのオフィスで撮影されました。

Buddy Hincke

## Buddy Hincke 氏より 2 回目のメール。

こんにちは。ご返事ありがとう。私の手紙の一部でも全てでも好きなように会報誌に掲載して頂いて結構です。

私は 2 年間東京地区で過ごし、後年を含めると計 3 年を日本で過ごしました。ほんとに楽しい日々でした。また東京宝塚劇場で催されたステージショーの一員でもありました。たくさんの日本の友人を作りましたがその多くはすでに亡くなっていると思います。浅草近辺で多数の俳優、女優たちとも友達になりました。その時日本語で話すことを少々学んでいましたが、これが多くのショーステージを経験する基礎になったと思います。写真を少し追加しました。

一枚は映画女優の朝霧鏡子さんと一緒に私です。他の一枚は軍のコンテスト用に撮った「コムソウさん」で、もう一枚は当時の愛宕山の姿です。あとの二枚の写真は放送機器に向かう私とテレタイプ前の私です。明治ビルの中にありました。その時 私は、丸ノ内の東京駅に近い新海上ビルに住んでいました。



Buddy Hincke 女優の朝霧鏡子さんとの記念写真。



マミヤクラブ第3号表紙 (昭和27年1月25日発行) ※発行所住所は文京区本郷1-7 マミヤ光機株式会社と現事務局近くでした。



軍のコンテスト用に撮影した虚無僧のスナップ。



マミヤカメラ会報誌から: Buddy Hincke さんとモデルの海女さん。



Buddy Hincke さんの記憶によると左から岡本、加藤、本人、工藤各氏で 1949 年にマミヤ光機社内撮影。



Buddy Hincke さんが無線技師として務めていた愛宕山放送局風景。



## ▶▶▶ 曾我定昭指導「天城の森と溪谷撮影会」2012 report

2012年11月9～10日に指導講師に伊豆・天城を精力的に撮影する写真家・曾我定昭氏を迎え、天城・八丁池周辺の森と滑沢溪谷で撮影会を開催しました。天城山は静岡県の伊豆半島中央部の東西に広がる山で広葉樹に囲まれており紅葉写真の撮影に適している山ですが天城を知り尽くしている曾我定昭さんならではの撮影スポット案内と撮影指導に参加者の皆様は大満足でした。それにしても東京からも2～3時間で行く事の出来る天城は注目の撮影地かもしれませんね。



東京駅を9時に出発、昼前には道の駅天城越えに。滑沢溪谷に直行です。



滑沢溪谷での撮影ポイント等のアドバイスを受けて出発です。思わず足早に。



残念ながら紅葉は遅れ滑沢溪谷の流れを主役に切り替え撮影開始。



早速、溪谷の撮影方法をアドバイスする曾我先生は真剣そのものでした。



夕食後は温泉地ならではの浴衣姿で、曾我定昭写真教室の開催です。



講習の後は曾我先生の2013年オリジナルカレンダーを全員にプレゼント。



翌朝一般車進入禁止のため道の駅天城越えで路線バスに乗り換え八丁池の森に。



バスに揺られる事約30分で八丁池バス停に。降りると天城の森が広がります。



八丁池に向かう途中にはブナやシャラ等の木々が多数点在します。



山の斜面に上手に三脚をセットし撮影。素晴らしい写真が撮影出来ましたよね。



曾我定昭先生は森に広がった参加者を廻り優しく撮影指導。ご苦労様です。



撮影が終了し八丁池口に集合。路線バス、更にチャーターバスで帰路に。

## ▶▶▶ 参加者作品発表



古関 良一 「初秋の佇まい」 7II f22 1/5 RVPF



古関 良一 「天城の秋」 7II f22 1/5 RVPF



谷本 清彦 「美肌競う」 7II 80mm f16 E100VS



谷本 清彦 「溪流滑る」 7II 150mm f8 RVP100



小宮 節子 「大地に根付く」 7II 80mm f22 E100VS



小宮 節子 「溪谷秋彩」 7II 150mm f16 E100VS



西山 繁 「清流」 RB67SD 250mm f32 6s E100G



西山 繁 「深き天城の森」 RB67SD 65mm f22 1/4 RDPIII



佐久間 弘 「秋」 RB67 500mm f22 1/30



佐久間 弘 「天城の印象」 RB67 65mm f22 1/30



松井 謙吾 「秋の彩り」 645AFD 105-210 f13 1/4 RVP100



松井 謙吾 「小さな激流」 645AFD 55-110 f19 1/2 RVP100



## ▶▶▶ 銀杏舞う東大構内撮影会

## 2012 report

2012年12月1日、文京区本郷のクラブ事務局から徒歩数分の東京大学構内で「銀杏舞う東大構内撮影会」と銘打って撮影会が開催されました。例年12月初旬は東大構内が銀杏の葉に埋め尽くされる時期なのですが、残念ながら1週間程早かった様で黄色一色の世界は体感出来ませんでした。それでも思い思いの黄葉・紅葉を求め皆さん撮影に熱中されていました。



お馴染み東京大学・安田講堂前です。本来ならばこの銀杏並木の通路も黄色い絨毯になっていたのですが・・・



木々には未だ元気な葉っぱが張り付いています。それでも風が吹くとささやかな銀杏吹雪です。



工学部前の銀杏の大木は流石に存在感があります。



ムムム、ここは気持ち銀杏の絨毯状態でしたが・・・後数日で真っ黄色になる筈です。



銀杏の巨木下にカメラを構え撮影中です。ちょっと体勢がきつそうでした。



例年ならば赤と黄色に染まる三四郎池ですが、被写体としては少し物足りない！



銀杏を見上げて撮影すると太陽光がディフューズされちょっとキレイです。



プライベートで参加した写真家の阿部秀之先生でしたが、参加者の質問には優しく答えていました。流石です。

## ▶▶▶ 参加者作品発表



瀧元 雅啓 「神秘的な秋の光」



瀧元 雅啓 「私は消火栓です。」



金丸 清人 「恩師の秋」



金丸 清人 「三四郎池秋景」



杉山 順子 「レッドカーペット」



杉山 順子 「黄色のシフォン」



米澤 章 「秋化粧」



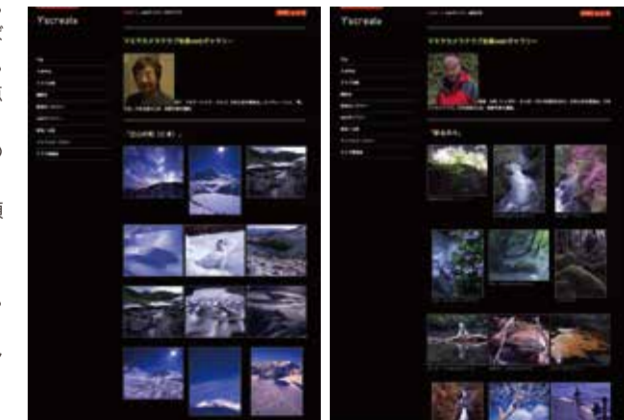
米澤 章 「学園の秋」

### マミヤカメラクラブ web ギャラリーに貴方の作品を掲示しませんか？

マミヤカメラクラブのホームページ (www.mamiya-club.com) の中に会員が作品を発表できる web ギャラリーを開設致しました。クラブ会員ならばだれでも展示可能ですから是非ご利用ください。

#### 《マミヤカメラクラブ web ギャラリー掲載について》

- ギャラリーはマミヤカメラクラブ会員ならば誰でも作品展示できる web ギャラリーです。ただし作品はマミヤカメラで撮影されたものに限り、マミヤカメラクラブの会員ならばどなたでも web ギャラリーに掲載できます。下記項目をお読みいただきお申し込みください。
- (1) ギャラリーには 15 点迄作品をアップできますが追加する場合は最高 30 点迄で 1 点 315 円 (1 年間) の別途費用が掛ります。
  - (2) web ギャラリーに申込される場合は画像サイズを長辺 500pixel、解像度 72pixel の JPEG 又は GIF フォーマットで事務局迄お送り下さい。
  - (3) 上記作品には名前 (英文字)、番号 (半角) を付けて下さい。(和文不可) 作品展示順はこの番号順となります。(例) kido001.jpg 又は kido001.gif
  - (4) ギャラリーにはタイトルを付けて下さい。(例) 「尾瀬の四季」「山岳写真あれこれ」
  - (5) web ギャラリーで使用する作者の略歴とポートレート写真を同時にご用意ください。(ポートレート写真の掲載不要の方は略歴のみ)
  - (6) 作品をスキャンして JPEG 又は GIF フォーマットにできない場合は、スキャン作業を代行致します。この場合は 1 点につき 315 円が掛ります。
  - (7) ギャラリーの作品を変更する場合 1 点につき 210 円の費用がかかります。



#### 編集後記

特集として Buddy Hincke さんから届いた写真とメールを紹介致しました。よくまとまった文章、添付されていた写真に大変感激致しました。会報誌の表紙になった海女さんの写真ももちろん素晴らしいですが、何気なく撮影された当時の愛宕山風景、マミヤ社内で撮影された集合写真、女優とのスナップ等、写真を見るだけで当時の様子を想像出来る様な気がします。それは建物や自動車、写っている人の着物の柄や髪型、洋服の形、ネクタイなどが時代を反映しているからです。愛宕山の写真も当時ではどうと言う事の無い風景だったと思いますが、年月が流れ回顧する思いの上で懐かしさ、貴重さが増していくのです。写真はやはり時代を映す「記録」の手段である事を再認識してしまいました。 マミヤカメラクラブ事務局 木戸 嘉一

Mamiya Gallery22号  
2013年3月20日発行  
発行：マミヤカメラクラブ事務局  
制作：ワイズクリエイティブ  
編集：木戸 嘉一 鈴木 麻子  
※掲載の写真・記事等を許可無く複写・転載することを禁じます。



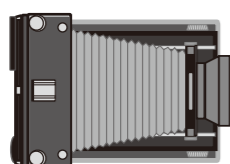
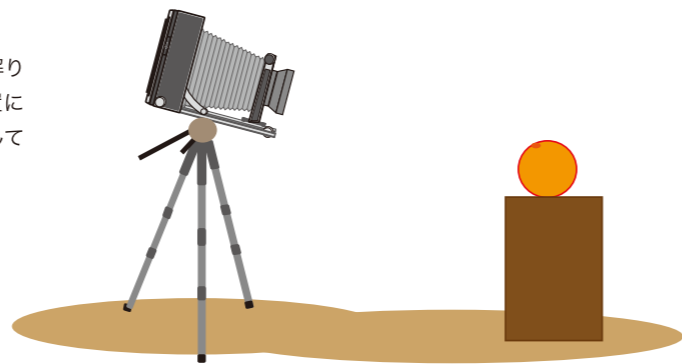
# 大判カメラのすすめ

その2

「大判カメラのすすめ」の第二回は形のコントロールアオリです。大判カメラのレンズ面を倒したり首を振ったりする事でピント面を自由にコントロールする事は前回まとめましたが、今回は大判カメラのフィルム面（バック部）を動かす事により被写体の形が自由にコントロール出来ることを説明致します。 木戸 嘉一

## 《ミカンを撮影して形のコントロールアオリを検証します》

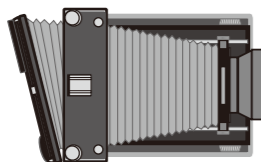
大判カメラと標準レンズ(150mm)を三脚にセットします。被写体は形の変化が解りやすいミカンをテーブルの上に置きます。カメラポジションはミカンを俯瞰した位置にしてミカン全体を構図の中心よりやや下にセットしました。それでは実際に撮影してみましょう。



大判カメラを上から見た状態です。何のアオリも使用しないで通常撮影しました。



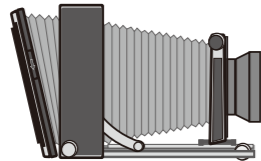
ミカンは見た目通りの形で撮影されました。通常のカメラで撮影しても此の様に撮影出来ます。※正確に言うともミカンの形は若干上部が大きくなっています。



大判カメラを上から見た状態です。フィルム面（バック部）の片面を引っ張り出しアオリ撮影しました。



見た目のミカンより横に1.5倍程大きくなっています。この撮影方法は自動車のカタログ等で使われ被写体を横に広げてよりワイド感を強調します。



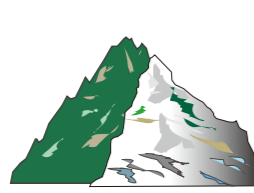
大判カメラを上から見た状態です。フィルム面（バック部）上部を引っ張り出しアオリ撮影しました。



見た目のミカンより縦に1.5倍程大きくなっています。横の大きさは通常撮影ミカンと同じですが被写体を伸ばす事によりスマートなミカンになってしまいました。モデル撮影等で使われるアオリです。

## 《風景写真撮影では形のコントロールアオリはどの様にして使うのか》

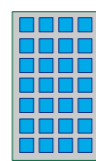
大判カメラのフィルム面（バック部）を可動させる事により被写体の形がコントロール出来る事はお解り頂いたと思いますが「こんなミカンみたいな撮影しないよ」との意見もあるとおもいます。それでは実際に風景写真で形のコントロールアオリを使う事例を紹介します。



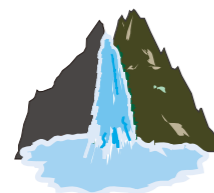
高い山



巨木



建築物



滝

写真は形のコントロールアオリの実写です。上がアオリ無し通常撮影で下がアオリを使用したものです。その違いは一目瞭然です。問題はアオリの効果は比較して解るもので一般的にアオリ無しの写真が当たり前とされています。



## 大蔵寺高原のブナ林撮影会 (5/24~26)

《吉野 信 撮影指導》

残雪と新緑のブナ林をテーマに新潟県十日町の大蔵寺高原等を吉野信先生が撮影指導・案内をします。特に吉野信先生は風景写真ではマミヤ7IIと大判カメラを多用していますので撮影についてのアドバイスも期待できます。

開催日	2013年5月24日(金)~26日(日)
集合	24日 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局 第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
解散	26日 夕刻~夜 東京駅、事務局
指導	吉野 信
参加費	70,000円(税込)
撮影地	新潟県十日町 大蔵寺高原、天水越他
宿泊先	十日町市内ホテル(シングル仕様)
備考	全行程チャーターバス(中型)となります。



吉野 信



## 奥日光の森撮影会 (7/26~28)

《石橋 睦美 撮影指導》

奥日光の森と滝と湖を森の撮影第一人者の石橋睦美先生の撮影指導と案内で訪ねます。比較的身近に感じる奥日光ですが、石橋睦美先生の撮影指導により私たちの想像する奥日光の風景が一変します。

開催日	2013年7月26日(金)~28日(日)
集合	26日 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局 第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
解散	28日 夕刻~夜 東京駅、事務局
指導	石橋 睦美
参加費	70,000円(税込)
撮影地	戦場ヶ原、竜頭の滝、湯滝、泉門池、赤沼、金精峠、湯の湖
宿泊先	奥日光湯の湖周辺ホテル
備考	全行程チャーターバス(中型)となります。



石橋 睦美



## 富士山 御庭・奥庭撮影会 (9/6~7)

《花畑 日尚 撮影指導》

富士山の5合目にあるカラマツ林に代表される御庭・奥庭と富士山周辺を花畑日尚先生が撮影指導・案内をします。以前もこの御庭・奥庭を花畑日尚先生が担当され撮影会を主催していますのできっと素晴らしい作品を撮影出来るかと確信です。

開催日	2013年9月6日(金)~7日(土)
集合	6日 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局 第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
解散	7日 夕刻~夜 東京駅、事務局
指導	花畑 日尚
参加費	40,000円(税込)
撮影地	富士山5合目 御庭・奥庭他
宿泊先	富士山周辺ホテル(シングル仕様)
備考	全行程チャーターバス(中型)となります。



花畑 日尚



## 裏磐梯と中瀬沼の森撮影会 (10/25~27)

《石橋 睦美 撮影指導》

アマチュアカメラマンが羨望し撮影会も多数開催されている裏磐梯ですが、森の写真家・石橋睦美先生にとって初の裏磐梯撮影会です。果たしてどの様な裏磐梯を案内してくれるか楽しみな撮影会です。

開催日	2013年10月25日(金)~27日(日)
集合	25日 第一集合場所 マミヤカメラクラブ事務局 第二集合場所 東京駅八重洲口 八重洲ブックセンター前
解散	27日 夜 東京駅、事務局
指導	石橋 睦美
参加費	72,000円(税込)
撮影地	檜原湖、五色沼、中瀬沼等
宿泊先	会津周辺ホテル(シングル仕様)
備考	全行程チャーターバス(中型)となります。



石橋 睦美



## 銀杏舞う東大構内の撮影会 (12/7)

開催日	2013年12月7日(土) 11時~15時
集合	11時 マミヤカメラクラブ事務局
撮影地	東京大学構内。
参加費	無料。



※上記撮影会はワイズ大中判写真の会との共同催行となります。